

宇野千代をしのぶ

薄桜忌 教蓮寺に顕彰会員やファン

■没年から27年
岩国市出身の作家・宇野千代(1897～1996年)の命日「薄桜忌(はくおうき)」



の10日、千代をしのぶ人たちが千代の菩提寺である川西2丁目の教蓮寺に集まり、法要を行った後、境内の墓に向かつて手を合わせた。

千代は27年前の6月10日、98歳で天寿を全うした。薄桜忌は千代の文学的業績を称えて顕彰活動を行っている宇野千代顕彰会(島津教恵会長)が行っており、この日は島津会長(85)をはじめ、会員やファンら15人が集まった。

宇野千代は明治・大正・昭和と3つの時代で活躍した小説家、随筆家。多彩な才能をもち、編集者や着物デザイナー、事業家としても名を残した。代表作に「おはん」があり、舞台や映画の原作となった。テレビでは「生きて行く私」がドラマ化され、波乱に満ちた生涯が話題を集めた。

川西・教蓮寺境内の宇野千代の墓に手を合わせる参拝者



顕彰会は千代の作品を愛する人たちの集まり。命日には教蓮寺を墓参した後、近くの宇野千代生家を訪ね、仏壇に手を合わせる。

10日は晴れ間が広がった。

午前10時から教蓮寺本堂で法要を営んだ。仏前には千代の好物だった「いが餅」を備えた。読経を終え、生前の宇野さんと親交のあった前任職の藤谷光信さん(86)は、「宇野さんの父母のお墓もここにあり、宇野さんはよくお参りになっていた。宇野さんはよ

教蓮寺本堂で行われた法要

く勉強しておられ、仏教にも大変詳しくかった」と生前から戒名を持っていたことなどを語った。

およそ50年前、藤谷さんが上京した折、ちょうど事業難だった宇野さんに会うことは出来なかったが、宇野さんの弟に会ったところ、岩国の家を売る話が出た。藤谷さんが地元の人たちが宇野さんを大切に思っていることを伝え、家は売らない方が良く話し